

まちの断片を紡ぐ

一まちの変化に寄り添う、このまちらしい更新の在り方



Keywords

均質化 地域コミュニティ 帰属意識

DZ21017 竹下 悠生

まちらしさ 要素抽出 蓄積

1. はじめに

家から駅までの、170メートル。毎日のように歩くその道は、どこか無意識に過ぎていく、何年も繰り返してきた、ただの「道」だった。

だが、通りに並んでいた建物が、いつの間にか建て替わっていることに気づいた。変わりゆく街並みに、わたしは初めて気づき、その変化が自分の目の前で静かに進行していたことを実感した。

では、私はどのような瞬間や要素を通じて、まちの変化を感じたのだろうか。そして、私たちのまちを形づくる「まちらしさ」とは一体何なのか。

2. 研究背景

2.1 現代社会のライフスタイルによるまちへの所属意識の低下

近年、人々のライフスタイルは、家から駅へ、そして職場へと直線的な移動を繰り返すものになりがちである。特に若者は、SNSの普及や在宅勤務の増加により、生活が家というハコの中に限定されることが多い。このライフスタイルは、地域に根ざした活動を行う機会を減少させている。その結果、若者や生産年齢層が地域社会に関与しなくなることで、地域そのものの活力も失われている。

2.2 まちらしさの喪失

均質化が進み風景や街並みが広がり、これまでの時間の積み重ねを感じさせる「まちらしさ」が失われつつある。

3. 研究目的

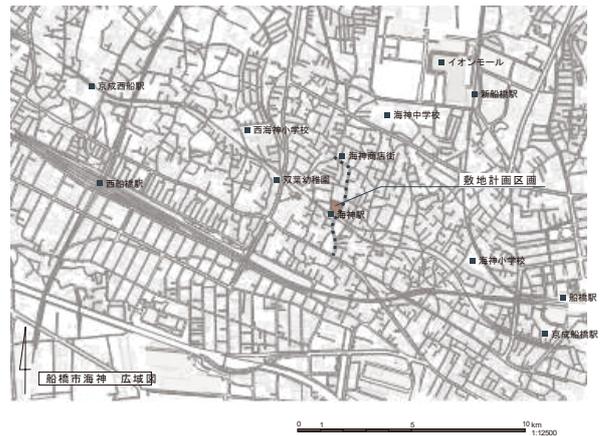
まちが変容していくことを肯定しつつ、そのまちらしさを蓄積する。そして、まちへの所属意識の低下を課題と定義し、そのまちらしい更新の仕方とまちとの関わりについて考える。

4. 対象敷地

4.1 敷地概要

対象敷地は、私の地元である千葉県船橋市の南西部に位置する海神地区とする。(図1)

船橋市の南西部に位置し、船橋駅と西船橋駅の間に位置するベッドタウンである。1951年に開業した海神商店街は駅前から南北へ300mほど続き、友人の家族が営むお店や、顔が見える繋がりが存在していた。しかし、近隣に巨大なショッピングモールなど大型施設やコンビニができたことで、多くが閉業し、商店街の賑わいが薄れてしまった。このまちの一区画を設計計画敷地の範囲とし、空き家6軒を改修対象とする。(図2)



(図1) 船橋市海神地区広域図、設計計画敷地区

4.2 敷地分析

(1) 建物の移り変わり

戦前、住宅地だったこのまちは、商店街へと変化する過程で、商店街特有の景観が形成された。しかし、商店街の衰退に伴い、画一的なデザインの住宅やアパートが増え、独自性が薄れてきている。

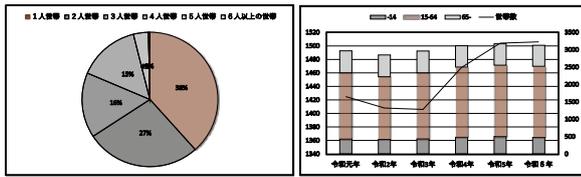


(写真1) 海神商店街特有のデザイン

(2) 人口推移

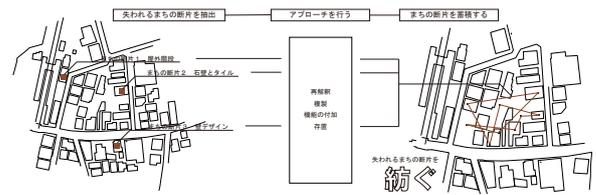
総人口と世帯数の増加率を比較すると、生産年齢人口は増加しており、一人暮らしや少人数家族が増加してい

ると考えられる。これらの傾向から、今後もこのまちは単身者向けの住居の需要が増えていくと予測される。



(表1) 世帯分布 (表2) 人口分布と総世帯数の推移

チを行い、まちに蓄積する。まちに蓄積されたまちの断片を目にすることで、まちの変化に目を向ける。



(図4) 要素の抽出と蓄積

(3) まちのコミュニティ

現在も地域コミュニティを維持しようとする町内会の取り組みが存在する。朝市や、商店街での祭りやまちの人が先生となる「まちゼミ」などが開催されている。また、駅では近隣幼稚園の子供たちの絵が展示されるなど、地域のつながりを感じられる場面もある。



(写真2) まちの活動

(1) 既存物件の蓄積と入れ子

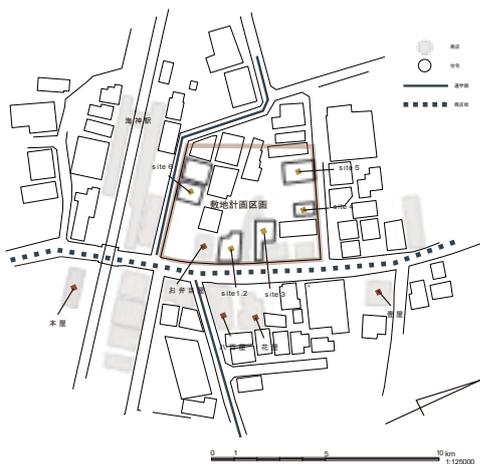
建物の変化は、まちの変化の中でも特に目につきやすい要素である。既存の建物の外壁や最低限の構造体を残すことで、過去の建物の存在を想起させる蓄積を行う。これにより、まちと建物、建物と人の距離感を保つ。この構造体の中に居室を作り、入れ子構造にすることで、まち、家、部屋の境界をぼかす。



(図4) 既存物件の蓄積と入れ子

(4) 設計計画敷地分析

対象敷地は海神駅北側にある海神商店街とその周辺住宅地の一区画である。人通りが多く、幼稚園や小中学校の通学路が交差するエリアで、商店の入れ替わりや住民の入れ替わりが早く、まちの変化が顕著にみられる場所でもある。



(図2) 設計計画敷地図

5. 設計コンセプト・プログラム

5.1 設計趣旨

(1) 要素の抽出と蓄積

このまちを構成する商店街であった名残である建築的要素、まちの繋がりなど、まちの断片を抽出する。抽出した要素に再解釈、複製、機能の付加、存置のアプロー

5.2 プログラム

用途：単身者に向けた共同住宅

諸室：居室、児童館、図書スペース、アトリエ、シェアキッチン、ダイニング、コインランドリー、リビング

敷地面積：1160㎡

延べ床面積：442.15㎡

6. 終わりに

均一化されていく現代において、まちの変化を否定せず、変化に寄り添いながらも「まちらしさ」を蓄積する更新の在り方を探求した。

今回の計画が地域再生や持続可能なまちづくりにおける新たな視点を提供するきっかけになることを願う。

参考文献

ほのぼの「B級商店街」歩き

<http://honobonobtown.blog.fc2.com/blog-entry-943.htm>

総務省 令和5年住宅・土地統計調査

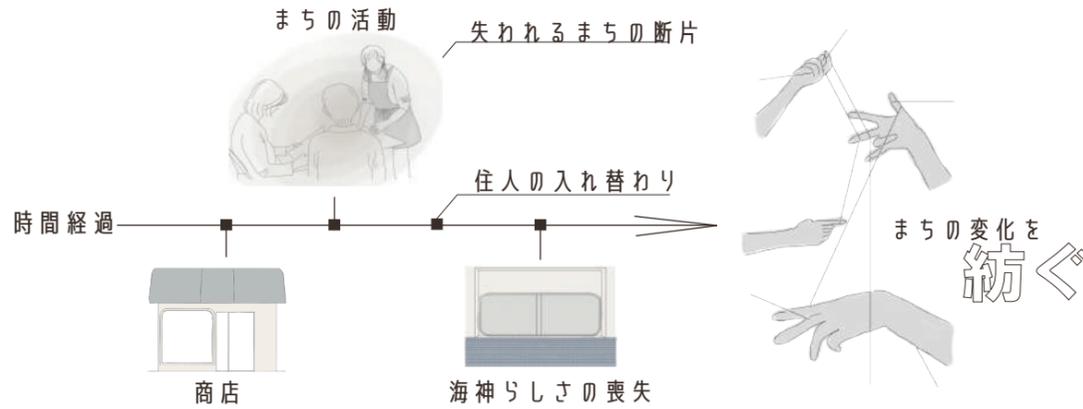
船橋市公式ホームページ

<https://www.city.funabashi.lg.jp/shisei/toukei/003/p004065.html>

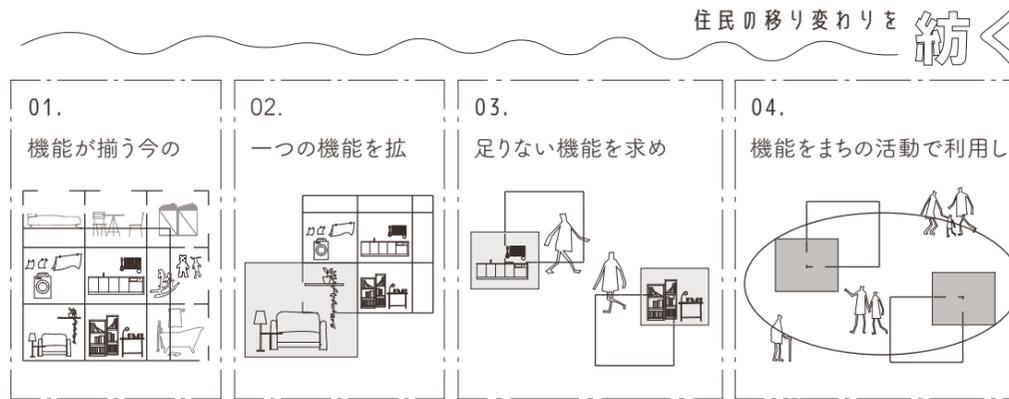
地域の統計地理データ towncheck

<https://towncheck.jp/areas/122040200/detail>

今まであった建物やコミュニティが失われ、個人的な利便性を追及するまちに変わっていく。しかし、私たちは変化が目の前で静かに進行していることに気づけていない。そこで、まちが変化していくことを肯定し、そのプロセスの中で、まちらしさを形成する「まちの断片」やまちの変化を読み取り、紡ぐ、このまちに寄り添う更新の在り方とまちとの関わりについて考え、まちの変化に気づくための、まちに目を向けるきっかけを作る。

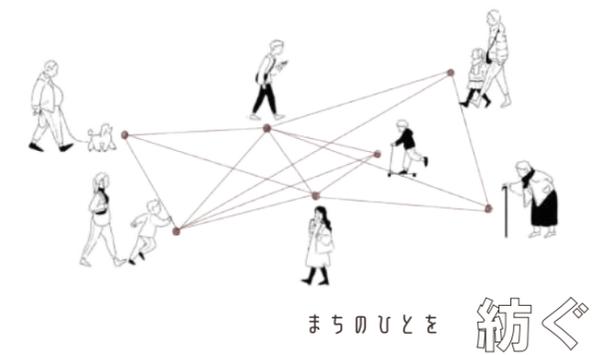


06-1 単身者に向けた機能を共有する共同住



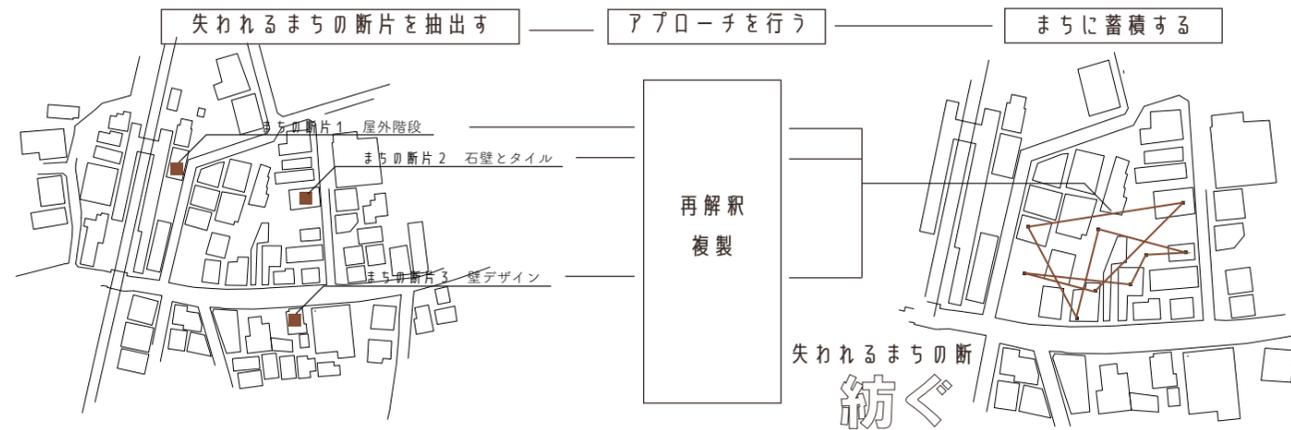
従来の家の中にある設備機能を最低限に削ると同時にある一つの機能を拡張することで、ハコに閉じていた住人が欠如した機能を求めて外に出る。拡張した機能はまちに対しても開放し、住人の集う場所とする。子供や地域住民と単身者が繋がることで、まちに関り、人の存在を感じながら生活することができ、まちに若者が関わることでまちの活動に活気があふれ、継続が見込める。さらに地域住民もまちに関わる。

06-2 ことものいえ - 児童館 -



商店街の互いの店を見守りあう繋がりをこのまちの断片として取り込み、子供たちの放課後の居場所を作り、子供同士、まちの人やボランティアスタッフである居住者が先生となり学び、見守りあう場所とする。

断片の蓄積



商店であった名残である外階段や下屋、路地や増築などこのまちを構成する建築的要素、建物や屋外空間の位置関係による空間的要素、まちの繋がりを活動、、、これらのまちを断片として抽出する。抽出した要素に、再解釈、複製、機能の付加、存置というアプローチを行い、まちに蓄積する

まちを歩くとふと蓄積されたまちの断片を目にすることで、「あれ、これさっきどこかで見たような…」「前あったお店にこんなあった気がするな…」と、まちに目を向けるきっかけとなる。

骨格の蓄積と入れ子



まちの断片の抽出

